



小売事業者のリサイクル状況

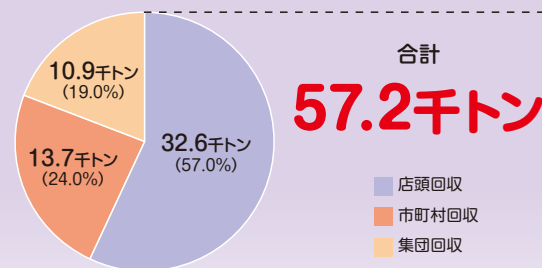
スーパーマーケットなどの
店頭回収BOXでは多くの紙パックが
回収されています。

家庭からの紙パック回収量の6割近くを占めているのがスーパーマーケットなどの店頭回収BOXに設置された回収ボックスからの回収です。

店頭回収の調査は、日本チェーンストア協会と日本生活協同組合連合会からの提供情報のほか、独自調査により行っています。2012年度の店頭回収量は32.6千トンで前年度より0.3千トン減少しました。

なお、小売形態の変化に合わせて、一部のドラッグストアについても調査を行っています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量 (推計値)



取り組んでいます! リサイクル

イズミヤ株式会社

(本部: 大阪府大阪市)

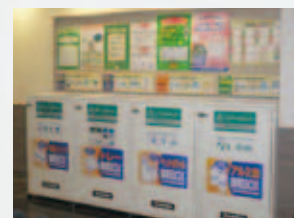
取組事例

イズミヤ株式会社は、関西地区を中心に91店舗(2013年10月末現在)を展開するチェーンストアです。環境方針を掲げ、環境マネジメントシステムを導入して環境活動に取り組んでいます。

「good-i ハートフル」は、生産から消費・廃棄までのライフサイクル全体を通して、環境負荷の低減や人へのやさしさを追求した環境配慮型商品です。お客様の声に耳を傾けながら、リサイクル原料を使用した商品や、自然環境を汚さない商品、アトピーや敏感肌の人にもやさしい商品などを、独自の基準に従って開発しています。

また、不要になったリサイクル資源をお客様にお持ちいただき、「回収した資源を再び商品化して店頭に並べる」という資源循環のシステムを構築しています。食品を取り扱う全店舗に牛乳パック、アルミ缶、ペットボトル、トレーのリサイクル回収ボックスを設置しており、紙パックの2012年度の回収量は297トンでした。

回収した容器類は、グループ会社である株式会社カンソーの津守エコセンターやリサイクル業者で再資源化され、ティッシュペーパーやカーペットなどの商品として生まれ変わっています。



回収ボックス設置様子
(西宮ガーデンズ店)



回収ボックス設置様子
(松原中央店)

福祉作業所の回収状況

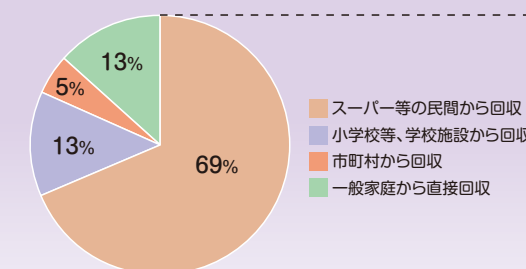
紙パックの回収以外に
紙パックの手すきはがきなど
製品づくりを行っています。

福祉作業所や市民団体の回収元は、スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスが最も多く、次いで一般家庭からの回収と小学校などの学校施設からの回収、さらに市町村からと多様です。2012年度の基本調査の回収量は例年と同じ約1千トンでした。

多くの福祉作業所では、紙パックの回収以外にも紙パックを再利用した手すきはがきやしおりなどの製品づくりを行っています。

なお、マテリアルフローの回収量は、全国パック連による福祉作業所の実態調査も加味しています。

福祉作業所、市民団体の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます! リサイクル

社会福祉法人ひびき福祉会 アクティビティセンターひびき

(大阪府東大阪市)

取組事例

ひびき福祉会は1977年に障がいのある方たちの働く場として、無認可共同作業所を開設して以来、1984年に法人認可されてからも、一貫して障がいのある人こそ施設の主人公として事業を進めてきました。[創造][安全][感謝][正義][連帯]の5つの言葉を基本的精神として、障がい者の福祉事業を推進しています。

ひびき福祉会の事業所である「アクティビティセンターひびき」では、障がいのある方に対して作業を行うことにより自己実現ができるように努めており、その一環として紙パックの分別作業を行っています。

週1回(夏場は2回)協力していただいているスーパーマーケットを2トントラックで回り、紙パックを回収。回収した紙パックには、トレーやアルミ付紙パックなどが混ざっているため、紙パックとその他のゴミに分別します。毎月約10トンの紙パックを有価物として古紙問屋さんに届けリサイクルしています。



紙パック分別作業風景



トラックへ積み込み!



市町村回収・集団回収の状況

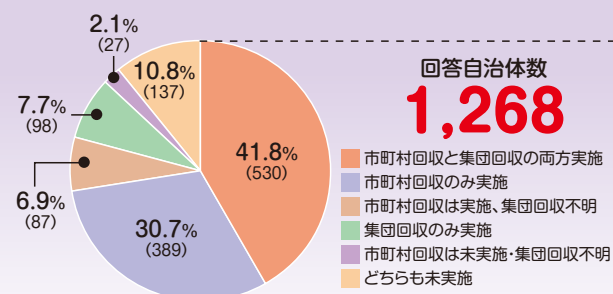
紙パックの回収は
全国の約9割の自治体で
実施されています。

2012年度調査は全国1,742市町村区のうち、福島原発事故の影響が残る7町村を除いた1,735の自治体を対象に実施し、1,268市町村区から回答を得ました。回答人口比率は日本全体の88.8%になります。

調査では、市町村区や一部事務組合などが行う収集を「市町村回収」、市町村区に登録された住民団体による回収を「集団回収」としています。

市町村回収と集団回収の実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収が79%、集団回収が不明を除いて50%でした。市町村回収と集団回収のいずれかを実施しているのは87%です。全国の約9割の自治体で紙パックの回収に取り組んでいることになります。

市町村回収と集団回収の実施率



自治体の取組によって
22.4千トンの紙パックが
回収されました。

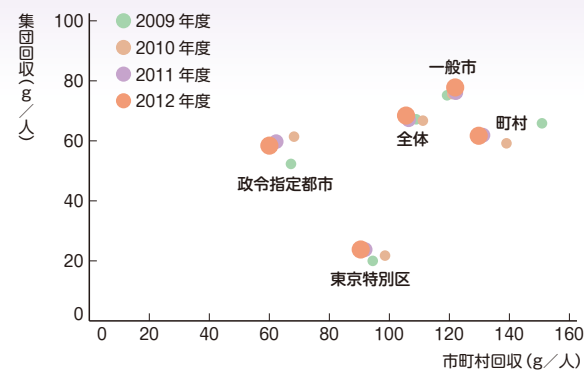
市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2012年度は市町村回収量が13.7千トン、集団回収量が8.7千トンで、合計では22.4千トンでした。

1人当たりの回収量(原単位)をみると、全国人口の6割以上を占める一般市の回収量がここ数年安定しているため、全体では大きな変動は見られません。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

		全体	一般市	政令指定都市	東京特別区	町村
市町村回収	推計量(千トン)	13.7	9.8	1.6	0.8	1.5
	都市類型別回収推計量比率	100%	72%	12%	6%	11%
	1人あたりの回収量(g/人)	108	123	60	91	130
集団回収	推計量(千トン)	8.7	6.2	1.5	0.2	0.7
	都市類型別回収推計量比率	100%	72%	17%	2%	8%
	1人あたりの回収量(g/人)	68	78	57	23	63
都市類型人口(百万人)		127	80	27	9	12

市町村回収と集団回収の都市類型別原単位の推移

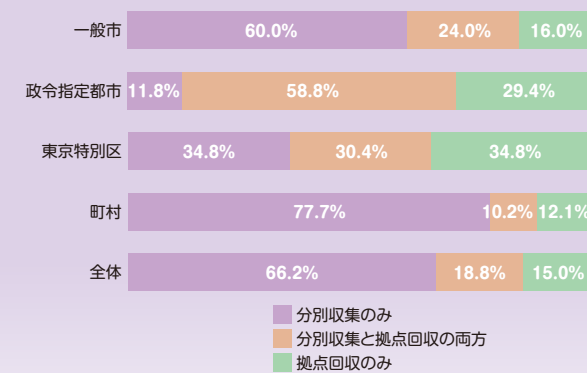


紙パックの市町村回収は
分別収集方式や拠点回収方式
で実施されています。

市町村回収の紙パック回収方式には、分別収集方式と拠点回収方式があります。分別収集とは各戸やステーションからの回収で、拠点回収は公民館の回収ボックスなどからの回収です。

紙パックを回収している市町村を都市類型別にみると、一般市と町村で分別収集方式が多く、政令指定都市と東京特別区では拠点回収方式が多くなっています。

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル

大阪府大阪市

取組事例

大阪市では、これまで環境事業センターでの受付回収や、区役所等の公共施設に回収ボックスを設置し、紙パックの回収を実施してきましたが、平成25年10月からは古紙・衣類の分別収集を全区で開始(平成25年2月から6区で先行実施)し、紙パックについても収集対象品目としたところ。紙パック回収量は、拠点回収が211トン(平成24年度)、分別収集が4トン(平成25年2月から9月の先行実施分)となっています。

また、平成25年10月からは、普通ごみ収集の際に、資源ごみや容器包装プラスチック、古紙・衣類など分別対象品目が混ざっているなど分別ルールが守られていない場合、啓発シールを貼り、収集せず残置することにより、家庭ごみの分別の徹底を図っています。

資源集団回収については、活動団体への支援制度を設けて活動の活性化を図るとともに、集団回収団体が出した古紙を回収している再生資源事業者の情報提供や廃棄物等減量等推進員と連携して新規団体の立ち上げに努めています。集団回収での紙パック回収量は5トン(平成24年度)でした。

その他、紙パックやトレイなどを自主回収している店舗などを紹介する大阪市リサイクルマップをホームページに掲載し、リサイクルが行いやすい体制を構築していきます。



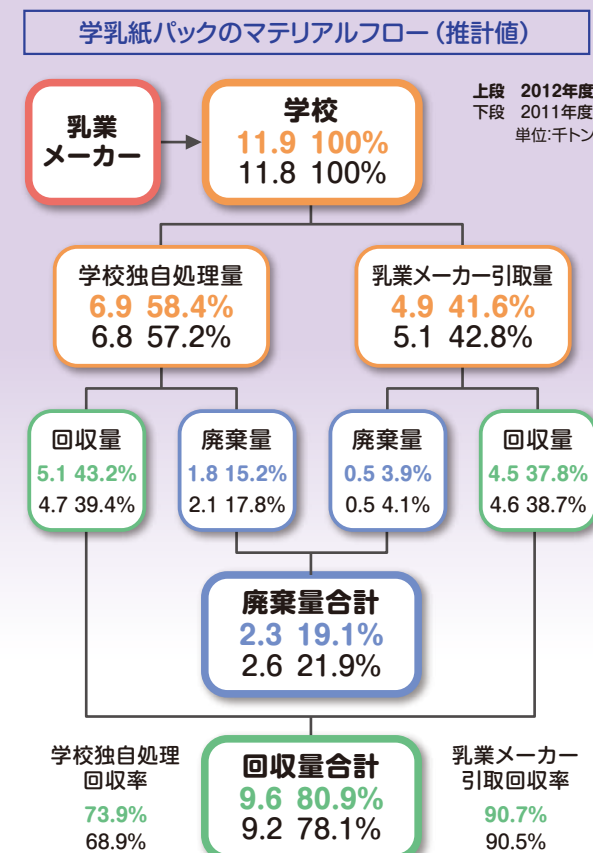


学校のリサイクル状況

学校給食用牛乳の
紙パックのリサイクルも
増加しています。

2012年度に学校給食用牛乳として供給された紙パックの総量は前年度とほぼ同じ11.9千トンでした。そのうちリサイクルのために回収された紙パックは9.6千トンで前年度より0.4千トン増加しました。

小学校では学乳紙パックのリサイクル以外にも、理科や算数などさまざまな授業での再利用や、家庭からの紙パック回収活動などが行われています。



※学校独自処理とは、学校が自治体や古紙回収業者などに直接引き渡すことを指します。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル

芳賀町立芳賀南小学校

(栃木県芳賀町)

取組事例

芳賀町は、栃木県の南東部に位置し、町のほぼ中央を五行川と野元川が流れており、県内でも代表的な米どころとして知られています。近年では町の西部の台地に大規模な工業団地が造られ、多くの企業が進出しています。

芳賀南小学校は、水橋小学校、水沼小学校、高橋小学校の3校を統合して平成18年に設立されました。学級数は14学級で、児童数は289名(平成24年4月1日現在)。

牛乳パックのリサイクルは、芳賀町環境対策室の協力のもと開校時よりずっと続けられています。回収量は、1日約300パック。指定バッグに回収しています。芳賀町が推進する「輪の町はが」活動(リサイクル活動や分別方法の周知徹底、残飯の肥料化など)にあわせ、牛乳パックの回収や給食の残りの分別排出などに取り組んでいます。年に1回、廃品回収を実施、PTAに呼びかけてペットボトルや新聞・雑誌、缶類とともに牛乳パックも回収しています。「洗って、開いて、乾かして、結束する」が守られており、軽トラック半分ほどの数量が集まっており、収益は学校の児童活動費にあてています。

牛乳パックのリサイクル等によって、児童たちの環境に対する意識が高まっています。



逆さにした紙パック乾燥中!



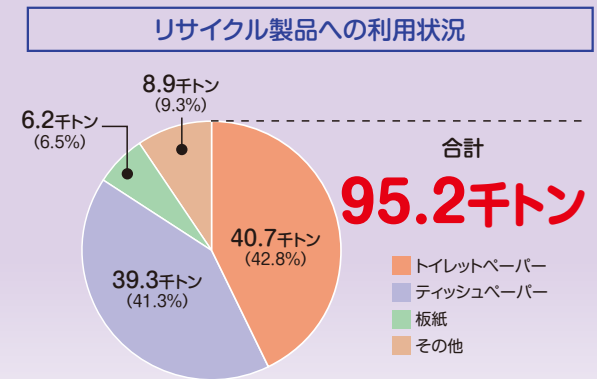
家庭からも牛乳パック回収協力

再生紙メーカーのリサイクル状況

回収された紙パックは
良質なパルプ繊維として
再生されています。

アンケートで回答を得た21社の再生紙メーカーのうち、国内で発生した紙パック損紙・古紙あるいは使用済紙パックを受け入れているのは17社でした。

2012年度の国内紙パック回収量と紙パック損紙輸入量をあわせた総受入量は118.8千トンになり、このうち約80%の95.2千トンがトイレtpーパーやティッシュペーパーなどのリサイクル製品として生まれ変わりました。紙パックは良質なパルプ繊維として、これら製品の貴重な原料になっています。



取り組んでいます! リサイクル

愛媛パルプ協同組合

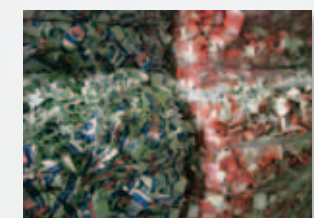
(愛媛県四国中央市)

取組事例

愛媛パルプ協同組合は、昭和44年に愛媛県下の製紙業者8社が構成員企業となり設立され、「地球にやさしい」を基本理念に古紙100%再生パルプの開発・製造をしています。また、工場が立地している川之江町は、紙・紙加工業が盛んな町で「紙のまち」として知られています。

最終製品は製造しておらず、再生パルプの形で構成員企業へ供給しています。西日本を中心に集められた古紙は、APライン240トン/日(主に事業系古紙や機密書類などを中心にパルプを製造)・MCPライン45トン/日(飲料用紙パックのみでパルプを製造)・SPライン60トン/日(コピー紙を中心に白色度が高いパルプを製造)という3種類の設備で製造され、構成員企業で家庭紙(トイレtpーパー・ティッシュペーパー)などの様々な形に変わり、再び私たちの生活に戻ってきており、まさに「紙から紙を作る」リサイクルの輪を実践しています。

特に牛乳パックを100%利用した再生パルプ(MCP)の開発により、天然パルプに匹敵する品質を有する最高級の再生パルプとして、従来の天然パルプとの置き換えなど、更なる再生パルプ生産体制の確立が期待されています。



集められた紙パック



山積みのMCP